様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：１３７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０４８２０

研究課題名（和文）アーツ・アンド・クラフツ運動と分離派建築会にみる近代建築草創期の「惑い」

研究課題名（英文）Study on the puzzlement of designers and architects in the initial stages of modern architecture through analysis of the Arts & Crafts Movements and the Bunri-ha Kenchikukai

研究代表者
杉山　真魚（Sugiyama, Mao）

岐阜大学・教育学部・准教授

研究者番号：７０６２５７５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，近代建築草創期に展開された英国のアーツ・アンド・クラフツ運動と日本の分離派建築会の活動に関与した建築家やデザイナーの思想の揺らぎを「惑い」として捉え，自然/歴史，都市/田園，装飾/空間，原始性/近代性，植物/動物等の対概念を析出し，その広がりと意味を明らかにした。具体的にはW.モリス，W.クレイン，L.F.デイ，C.R.アシュビー，M.H.ベイリー・スコット，W.R.レサビー，C.F.A.ヴォイジー，堀口捨己，蔵田周忠らの著作を扱った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
大きく二つの学術的意義があると考える。ひとつは「惑い」や「両義性」という概念を提示したことであり、機能性や合理性等のいわゆる近代的側面からのみ建築や装飾を評価しない方法を示した。もうひとつは近代建築草創期の英国と日本の思想的交流の一端を示したことであり、起源をめぐる問いの構造等を明らかにした。社会的意義として、研究成果の一部を分離派建築会に関する展覧会で発表することができた。

研究成果の概要（英文）：This study focused on the ambiguous thoughts of architects and designers who had participated in the early modern architectural activities of the Arts & Crafts Movement in Britain or the Bunri-ha Kenchikukai in Japan. Through descriptive analyses, this study elucidated the extent and meaning of two opposing concepts such as nature and history, city and country, decoration and space, primitivism and modernism, and plants and animals. This examination dealt with the writings by William Morris, Walter Crane, Lewis Foreman Day, Charles Robert Ashbee, Mackay Hugh Baillie Scott, William Richard Lethaby, Charles Francis Annesley Voysey, Sutemi Horiguchi, Chikatada Kurata, and so on.

研究分野：建築歴史・意匠

キーワード：惑い　アーツ・アンド・クラフツ運動　分離派建築会　近代建築　両義性　原始性　部屋　装飾

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)本研究の着想に至った経緯

研究代表者は，アーツ・アンド・クラフツ運動を制作と使用という人間存在の根本的事象に立ち返って記述できるのではないかという動機に基づき，これまで科学研究費助成事業を継続的に実施してきた（「アーツ・アンド・クラフツ運動にみる非モダニズムの射程」（若手 B/建築史・意匠，美学・芸術諸学/研究課題番号：25870640）および「20 世紀前半の英国建築にみる非モダニズムの射程」（若手 B/建築史・意匠，美学・芸術諸学/研究課題番号：16K21121））。これらの研究においてアーツ・アンド・クラフツ運動と日本の民藝運動における鍵語を析出しながら，「非モダニズム」という概念を提示することを試みた。本研究は，既往の科研費研究からの展開として，モダニズムと非モダニズムの境界に潜む問題群を改めて検証するために「惑い」という考え方を導入することを試みるものである。「揺らぎ」や「振幅」と言い換えることも可能である。これまで抽出した鍵語を「惑い」の観点から再整理するとともに，アーツ・アンド・クラフツの実践家のうち未検討のクレインとベイリー・スコットの思想や作品および民藝運動と同時期に展開された分離派建築会の活動を主導した概念を抽出する必要がある。

(2)関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ

モダンライフを「20 世紀最大の神話」と断言し，白物家電の宣伝広告を解釈学的に読み解いた『白物家電の神話―モダンライフの表象文化論』（原克，2012）ではモダニズムの解体の方途が探られている。原の着眼点に示唆を受け，本研究では近代建築とモダンライフの関係を客観的に検証する。近年，アーツ・アンド・クラフツ運動に関与した個別の人物の伝記や作品集が盛んに出版されているが，かれらの制作に関わる主導概念を問う研究は管見において見当たらない。一方，当運動の全体像に関して，作品面については作品集 *The Arts and Crafts Movement*（Blakesley，2006）や作品解説書『アーツ・アンド・クラフツの建築』（片木，2006）に詳しい。思想面については，『イギリスの社会とデザイン』（菅，2005）において政治学的見地からアーツ・アンド・クラフツ運動が読み直されている。本研究では全体像を「惑い」を示す制作関連用語とともに記述する。またアーツ・アンド・クラフツ運動と日本との関係を考察した代表的研究として「アーツ・アンド・クラフツと民藝―ウィリアム・モリスと柳宗悦を中心とした比較研究」（藤田ら，基盤 A，2011-14）が挙げられる。本研究では，民藝についても言及している分離派建築会のメンバーの思想に着目し，近代日本の工芸や建築の展開に関する新たな知見を得る。

２．研究の目的

本研究の目的は英国におけるアーツ・アンド・クラフツ運動および日本における分離派建築会の活動を主たる対象として近代建築草創期の建築家やデザイナーの「惑い」の一端を構造化することにある。本研究では極端な合理化や普遍化を追求する立場からは捨象された自然観や技術観を掘り起こしながら，都市に依拠しない思考や建築のあり方を検討することを試みる。非都市的地域の自然と建築との関わり合いの歴史や意義，地域的特性のかけがえなさが確認され，現代社会で切実に求められている地方創生に有効な学術的知見を提供できると考える。

３．研究の方法

建築や芸術の分野からアーツ・アンド・クラフツを研究するとき，作品を対象としてアプローチできるが，本研究では即座に作品研究に着手せず，まず，「惑い」という思想的側面に焦点を当てる。近代建築草創期の「惑い」として予見されるのは，主体の問題と場所の問題である。この時期，①制作・受容の両面における個性と共同性の葛藤という主体に関する課題，②都市と田園の融合あるいは分離という場所に関する課題が如実に浮上したと考えられる。本研究はこれら２つの課題について，文学，社会学，経済学などの知見を援用しながら学問横断的に記述・分析するものである。また，英国と日本の比較を行うことでより広範な「惑い」の見取図の獲得を狙う。将来的には他分野の研究者との共同研究に発展させ，地域性や共同体の問題を含めた生活環境史という視座を得たいと考えている。

本研究では，19 世紀後半から 20 世紀前半の英国ならびに日本の建築思潮に関わる著作や活動を整理した上で，さしあたり以下に示す 3 つの項目を主たる研究対象としながら，それぞれ言説研究（「惑い」の抽出）を行ったのちに作品研究（「惑い」の具現化の検証）へ移行する研究計画を立てた。

(1)ウォルター・クレイン（1845-1915）の理論と実践

これまで継続的に研究してきたウィリアム・モリス（1834-96）の思想と作品を比較対象としながら，モリスの後継者と目されるクレインの独自性を解明する。具体的にはクレインの思想における“architecture”概念に着目して制作行為の射程を検討するとともに，“nursery paper”と呼ばれる子ども部屋用壁紙の分析を通して子どもという主体の意味を考察する。

(2)ベイリー・スコット（1865-1945）と雑誌 *The Studio* の関係

施主としての中流階級の台頭・定着が急速におこった世紀転換期英国において書籍・雑誌メディアが大きな意味をもっていたと考えられる。本研究では *The Studio* 誌に郊外住宅や田園都市に関する記事を多く残しているスコットの論点を整理しながら活動を追い，施主という主体，郊

外や田園都市という場所の特性の一端を示す。
(3)分離派建築会（1920 発足，1928 解散）のメンバーが捉えた大正末期～昭和初期の生活像
　分離派建築会の会員は英国建築をはじめ海外の近代建築の潮流をいち早く日本に紹介したことで知られる。かれらは欧州への実地踏査の経験等から種々の態度変更を迫られた。本研究では，かれらが描いた生活者（民衆）像や生活環境（田園あるいは都市）像を時系列に沿って体系化する。とりわけ，民家や田園について多く論じている大内秀一郎（1892-1937）と蔵田周忠（1895-1966）の動向を詳細に検討する。
　研究開始当初は 3 年間での完了を予定していたが，感染症の影響を受け 1 年延長した。

４．研究成果
　得られた成果を年度ごとに報告する。
(1)令和元年度
　資料の収集，19 世紀後半から 20 世紀前半の英国ならびに日本の建築思潮に関わる著作や活動の整理，英国の建築教育や壁面装飾に関する言説研究を中心に行った。成果は以下 8 点にまとめられる。①研究体制の確立。②資料収集：英国の装飾芸術史および日本の分離派建築会に関する資料を中心に収集した。③世紀転換期の英国および日本の思想家・実践家の整理：本研究の礎となるように，英国についてはアーツ・アンド・クラフツ運動関連人物とウィリアム・モリスの思想との異同を体系化することを試み，日本については分離派建築会と都市関連著作という視点によって資料整理した。④英国の建築教育に関する言説研究：チャールズ・ロバート・アシュビーの建築家教育についての言説を記述分析した。⑤英国の壁面装飾に関する言説研究：ウォルター・クレインとルイス・F・デイのデザイン思想を日本への眼差しに注目して比較分析した。⑥分離派建築会の言説研究：大内秀一郎の思想を中心に解読を進めた。⑦「惑い」の検討：「両義性」「葉形装飾」「グリーン」「聖」「職人技術」「機械」「都市」などの概念とともに「惑い」の構造化を試みるとともに，日本建築学会や分離派 100 年研究会等において他の研究者と本研究の内容を共有・議論する機会を得た。⑧研究成果の公表：モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動について（『都市文化研究』），クレインとデイについて（『カルチュラル・グリーン』），「グリーン」について（『日本家政学会誌』），各 1 編の論文にまとめた。
(2)令和 2 年度
　前年度からの取組である 19 世紀末から 20 世紀初頭の英国ならびに日本の建築思潮に関わる著作や活動の整理を充実させるとともに，建築家ベイリー・スコットの言説および作品の解読を進めた。主たる研究成果は以下 6 点にまとめられる。①世紀転換期の英国の思想家・実践家の整理：アーツ・アンド・クラフツ運動関連人物による著作リストを作成した。ウォルター・スパロウやトーマス・デーヴィソンら，メディアと深い関わりを持つ人物を新たに加えた。②英国の壁面装飾に関する言説・作品研究：2-1)ウォルター・クレインのデザインの特質の一端を明らかにした。2-2)*The Studio* 誌におけるスコットの論点を軸に，C.F.A.ヴォイジーやウィリアム・モリスらとの共通点・相違点を探った。分析にあたり，島根大学の千代教授，日本大学の田所教授と研究協力体制を確立した。③分離派建築会に関する展覧会：東京（2020 年 10 月～12 月，於：パナソニック汐留美術館）および京都（2021 年 1 月～3 月，於：京都国立近代美術館）において，「分離派建築会 100 年：建築は芸術か？」展の企画・開催に関わった。Ⅳ章「田園へ向かう『足』」という内容を中心に学術協力した。④アーツ・アンド・クラフツ運動と都市計画に関する研究：デーヴィソンが関わったポート・サンライトの工業村について新たに調査を始めた。⑤「惑い」の検討：「部屋（room）」という概念に着目し，装飾論と空間論をつなぐ視点の可能性を検討した。⑥研究成果の公表：C.R.アシュビーとアーツ・アンド・クラフツ運動について（『日本建築学会計画系論文集』），モリス/ヴォイジー/ベイリー・スコットの壁面装飾について（『カルチュラル・グリーン』），各 1 編の論文にまとめた。分離派建築会については論考集と図録が刊行された。
(3)令和 3 年度
　前年度からの取組である建築家ベイリー・スコットの言説および作品の解読を進めるとともに，英国と日本をつなぐ「惑い」の視点として「原始性」という鍵概念を提示した。主たる研究成果は以下 5 点にまとめられる。①ベイリー・スコットの言説・作品研究：1-1)壁面装飾の主題と方法について，壁紙デザインを事例として分析するとともにアール・ヌーヴォーとの関連も探った。1-2)1890 年代英国の建築界の動向を整理した上で，ベイリー・スコットの住宅論における「装飾」概念の広がりを記述分析した。②近代住宅と「原始性」に関する研究：2-1)ウィリアム・モリス，W.R.レサビー，ウォルター・クレイン，C.F.A.ヴォイジーらの言説から「原始性」に関わる英国での論点として，中世主義からの展開，進化論との接続，宗教の問い直しという 3 つを析出した。2-2)英国から日本への波及事例として，伊東忠太および分離派建築会の蔵田周忠による言葉を中心に検討した。③進化論とアーツ・アンド・クラフツ：レサビーの著作を読み進める中で，ハーバート・スペンサーの建築様式論という新たなテーマが浮上した。④「惑い」の検討：4-1)「装飾」という制作行為における「惑い」として，表面的虚飾，建築の衣服としての装飾，構造体への装飾という考え方を示した。4-2)近代における「原始性」追求という矛盾あるいは不可分の関係もひとつの「惑い」として捉えられる。⑤研究成果の公表：ベイリー・スコッ

トの住宅論について(『日本建築学会計画系論文集』),近代建築草創期の原始性追求について(『カルチュラル・グリーン』)，各１編の論文にまとめた。
(4)令和４年度
　前年度に引き続き C.F.A.ヴォイジーに関する研究を進めるとともに、近代建築草創期の「惑い」の視点について装飾における動物の模様化という問題を取り上げた。主たる研究成果は以下4点にまとめられる。①C.F.A.ヴォイジーの言説・作品研究：父親の C.ヴォイジーによる有神論の思想との関わり、住宅における「単純」と「平穏」という特質の意味、壁紙デザインにおける「幅」という考え方などを分析し、装飾において倫理と意匠を往還する概念が主題化されていることを明らかにした。②アーツ・アンド・クラフツ運動における動物模様の展開：ウィリアム・モリスによる捺染木綿「いちご泥棒」や毛織物「孔雀と竜」を糸口として動物の模様化について，植物模様との異同を示しつつ，構成，運動性，象徴性，物語性という４つの論点を整理した。③「惑い」の検討：これまでに明らかにしたアーツ・アンド・クラフツ運動における装飾と空間の両立という問題に加えて，装飾表現の多様性（植物と動物）について考察した。④成果の公表：C.F.A.ヴォイジーの壁紙デザインについて（『日本建築学会大会学術講演梗概集』，世紀転換期英国の動物模様について（『カルチュラル・グリーン』），各１編の論考にまとめた。
　研究期間全体を通じた研究成果として，最終年度に「ウィリアム・モリスの両義性とアーツ・アンド・クラフツ運動」という論考を発表する機会を得た（共著『装飾の夢と転生』）。本研究課題が主題とする「惑い」の視点について，自然/歴史，過去/未来，都市/田園，中産階級/労働者階級，アート/クラフトという５つの対概念を提示し，それらが大地，時間，環境，民衆，制作という包括的概念に統合できることを論じた。これらに加えて近代建築初期の動向として装飾/空間，原始性/近代性，植物/動物などの対概念とその内実を明らかにした点に本研究の独自性があると考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 杉山真魚	４．巻 4
２．論文標題 世紀転換期英国の動物模様	５．発行年 2023年
３．雑誌名 カルチュラル・グリーン	６．最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 杉山真魚，千代章一郎，田所辰之助	４．巻 建築歴史・意匠
２．論文標題 C.F.A. ヴォイジーの壁面装飾について	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本建築学会2022年度大会学術講演梗概集（北海道）	６．最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 千代章一郎，杉山真魚，田所辰之助	４．巻 建築歴史・意匠
２．論文標題 シャルロット・ペリアンにおける「フォルム」の概念形成と「装飾」：「フォルム・ユティール」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本建築学会2022年度大会学術講演梗概集（北海道）	６．最初と最後の頁 755-756
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 杉山真魚	４．巻 4
２．論文標題 “Life on Land”の基層―生命活動と外的自然との結びつき	５．発行年 2023年
３．雑誌名 カルチュラル・グリーン	６．最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 86巻790号
2．論文標題 ベイリー・スコットの住宅論における「装飾」概念の拡張	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6．最初と最後の頁 2767-2778
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.86.2767	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 3
2．論文標題 近代建築草創期の原始性追求：英国の事例を端緒として	5．発行年 2022年
3．雑誌名 カルチュラル・グリーン	6．最初と最後の頁 23-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚，千代章一郎，田所辰之助	4．巻 建築歴史・意匠
2．論文標題 ベイリー・スコットの壁面装飾について	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本建築学会2021年度大会学術講演梗概集（東海）	6．最初と最後の頁 103-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 千代章一郎，杉山真魚，田所辰之助	4．巻 建築歴史・意匠
2．論文標題 シャルロット・ペリアンにおける「装飾 decor」概念の構成	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本建築学会2021年度大会学術講演梗概集（東海）	6．最初と最後の頁 625-626
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 85巻772号
2．論文標題 チャールズ・ロバート・アシュビーの芸術教育論における「機械」の諸問題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6．最初と最後の頁 1313-1323
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.85.1313	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 千代章一郎，田所辰之助，杉山真魚	4．巻 86巻779号
2．論文標題 シャルル＝エドゥアール・ジャンヌレ（ル・コルビュジエ）のドイツ装飾芸術運動研究における「装飾」の概念構成 「工業」「芸術」「類縁性」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6．最初と最後の頁 297-307
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.86.297	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 2
2．論文標題 装飾と空間の両立：アーツ・アンド・クラフツの部屋	5．発行年 2021年
3．雑誌名 カルチュラル・グリーン	6．最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 -
2．論文標題 ウォルター・クレインの壁面装飾について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本建築学会2020年度大会学術講演梗概集（関東）	6．最初と最後の頁 453-454
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 -
2．論文標題 モリス研究の現状：モリスの書物論とアーツ・アンド・クラフツ運動	5．発行年 2021年
3．雑誌名 神奈川大学共同研究（2017-2019年度）報告書：研究課題名「ケルムスコット・プレスとウィリアム・モリスのデザイン思想」	6．最初と最後の頁 88-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 1
2．論文標題 クレインとデイのデザイン思想にみる日本への眼	5．発行年 2020年
3．雑誌名 カルチュラル・グリーン	6．最初と最後の頁 69-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 白田由樹，杉山真魚，辻昌子，髙井絹子，長谷川健一	4．巻 22
2．論文標題 特集　世紀転換期の装飾と「近代性」をめぐる問題―ヨーロッパ文化論の視座から―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 都市文化研究	6．最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 1
2．論文標題 建築論の理	5．発行年 2019年
3．雑誌名 建築論研究	6．最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 70(8)
2．論文標題 住居とグリーン：住環境教育の新しい視点	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本家政学会誌	6．最初と最後の頁 555-561
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11428/jhej.70.555	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 -
2．論文標題 ウィリアム・モリスの両義性	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本建築学会2019年度大会建築歴史・意匠部門PD（１）「再生する近代：19世紀歴主義の現在性」資料	6．最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉山真魚	4．巻 -
2．論文標題 「建築論のテーマ」に関するキーワード：グリーン，選択	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本建築学会2019年度大会建築歴史・意匠部門PD（２）「建築論の問題群―形態言語を起点として」資料	6．最初と最後の頁 38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　4件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 杉山真魚
2．発表標題 世紀転換期英国の動物模様
3．学会等名 カルチュラル・グリーン研究会
4．発表年 2022年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 ウィリアム・モリスの両義性とアーツ・アンド・クラフツ運動
３．学会等名 独仏語圏文化学研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 ベイリー・スコットの壁面装飾について
３．学会等名 日本建築学会2021年度大会学術講演（東海）
４．発表年 2021年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 近代建築草創期の原始性追求：英国と日本の事例
３．学会等名 カルチュラル・グリーン研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 装飾と空間の両立：19－20世紀転換期英国の「部屋」
３．学会等名 カルチュラル・グリーン研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 チャールズ・ロバート・アシュビーの芸術教育論と建築
３．学会等名 日本建築学会2019年度大会学術講演（北陸）
４．発表年 2019年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 アーツ・アンド・クラフツ運動における日本への眼―クレインとデイの比較を通して―
３．学会等名 カルチュラル・グリーン研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 建築論の問題群―自然：グリーン
３．学会等名 第３回日本建築学会建築論・建築意匠小委員会連続研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 ウィリアム・モリスの両義性
３．学会等名 日本建築学会2019年度大会建築歴史・意匠部門PD「再生する近代：19世紀歴主義の現在性」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 新しい生活空間の創造をめざして
３．学会等名 連続シンポジウム「分離派建築会誕生100年を考える」第7回ディスカッションモデレーター
４．発表年 2019年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 建築論の問題群―聖：民衆の芸術と「用美不二」
３．学会等名 第５回日本建築学会建築論・建築意匠小委員会連続研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 民衆の芸術と自然
３．学会等名 第４回建築論研究会ワークショップ「建築の自然と聖」
４．発表年 2019年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 「葉形装飾（foliation）」の展開について
３．学会等名 独仏語圏文化学研究会「モダニズム揺籃期における産業/芸術観の諸相―ヨーロッパ比較文化論の視座から」第３回定例研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 杉山真魚
２．発表標題 モリスの書物論とアーツ・アンド・クラフツ運動
３．学会等名 神奈川大学ミニシンポジウム「モリス研究の現状」（招待講演）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計3件

１．著者名 白田由樹、辻昌子、杉山真魚、小田藍生、平光文乃、中島廣子	４．発行年 2022年
２．出版社 国書刊行会	５．総ページ数 436
３．書名 装飾の夢と転生：世紀転換期ヨーロッパのアール・ヌーヴォー	

１．著者名 田路貴浩編	４．発行年 2020年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 592
３．書名 分離派建築会―日本のモダニズム建築誕生	

１．著者名 大村理恵子・本橋仁編	４．発行年 2020年
２．出版社 朝日新聞社	５．総ページ数 276
３．書名 分離派建築会100年：建築は芸術か？［カタログ］	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関